

## 生産性向上支援センターの支援事例①

業種	飲食店	年商・従業員数	2億円程度・50名程度
紹介元	金融機関	担当サポーター	齊藤サポーター

### [現状]

- ・店舗別の採算管理が不透明  
居酒屋を複数店舗運営する事業者。店舗別の採算について、共通経費の配賦がなく、各店の正確な採算性が掴めない状況にある。



※イメージ

### [支援の方向性]

- ・共通経費配賦ルールの整備、メニュー別の原価を把握、管理することとし、原価管理体制を整えた後、メニュー構成を見直し、調理工数・仕込工数を削減して現場負荷軽減及び収益性向上を図る。

1

## 生産性向上支援センターの支援事例②

業種	食品製造業	年商・従業員数	1億円程度・10名程度
紹介元	HSC	担当サポーター	末武サポーター

### [現状]

- ・従業員の勤怠管理及び給与支払いが煩雑  
タイムカード打刻→従事時間を手計算→給与計算ソフトに入力  
→貸金台帳に金額等転記→金融機関にて金種指定で払戻→現金手渡し  
※工数多く、間違いによる手戻りもあり※



※イメージ

### [支援の方向性]

- ・ICカード対応の勤怠管理システム導入→給与計算ソフトへデータ連携  
→貸金台帳自動生成→振込FBデータとして取込→振込送金

2

## 生産性向上支援センターの支援事例③

業種	食品製造業	年商・従業員数	1億円程度・20名程度
紹介元	よろず	担当サポーター	尾崎シニアサポーター

### [現状]

- ・製造手順が未設定で、作業者の「勘」や「コツ」に頼った生産  
作業者ごとに単位時間あたりの生産数、歩留まりにバラつきがある。
- ・生産可能数量がアバウトなため、生産計画も場当たりの



※イメージ

### [支援の方向性]

- ・主力1製品について、「標準製造手順」を整備し、人材育成（多能工化）を進めるほか、歩留まりの向上により採算も改善の見通し。
- ・事業者自ら他製品の手順書を作成したり、工程改善活動が行える「改善志向の職場」づくり。

3